

令和7年8月5日
青森市市民部人権男女共同参画課長

一般財団法人日本女性財団との

「女性のウェルビーイング推進に関する連携協定」 締結式の開催

青森市では、このたび、一般財団法人日本女性財団様と「女性のウェルビーイング推進に関する連携協定」を締結することとなりましたので、取材・報道をお願いします。

なお、一般財団法人日本女性財団様におかれましては、自治体との連携協定締結は全国初となります。



青森市
AOMORI CITY



女性たちに、生き抜く力を。

日本女性財団



日時

令和7年8月12日（火）午後2時00分～2時30分

場所

青森市役所本庁舎 2階 庁議室

出席者

一般財団法人日本女性財団

代表理事 対馬 ルリ子（つしま るりこ）様

理事 佐々木 恵美子（ささき えみこ）様

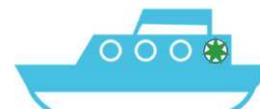
フェムシップドクター 竹林 紅（たけばやし くれない）様

協定概要

青森市と一般財団法人日本女性財団様において、女性のウェルビーイングを実現することを目的とし、連携した取組を実施するため、必要な事項を定めた協定を締結するもの。

その他

締結式閉会後に質疑応答を実施します。



女性たちに、生き抜く力を。

日本女性財団



Japan
Women
Foundation

あなたが、
誰かの
船になる。



すべての女性が
健康で生きやすく、活躍できる社会を目指して

医療・福祉・政治・経済が連携し、女性を包括的に支援します。

私たちの活動は、
女性たちを包括的に支援する社会をイメージし、フェムシップと呼んでいます。



japan-women-foundation.org

Action

私たちは、3つのテーマで活動します

I 女性たちの現状を知る活動

フェムシップドクターや支援団体が、現場で女性たちの救済に取り組みながらその現状について調査、記録しています。

すべての女性が健康で生きやすく、活躍できる社会を目指す

II 女性支援を拡げる活動

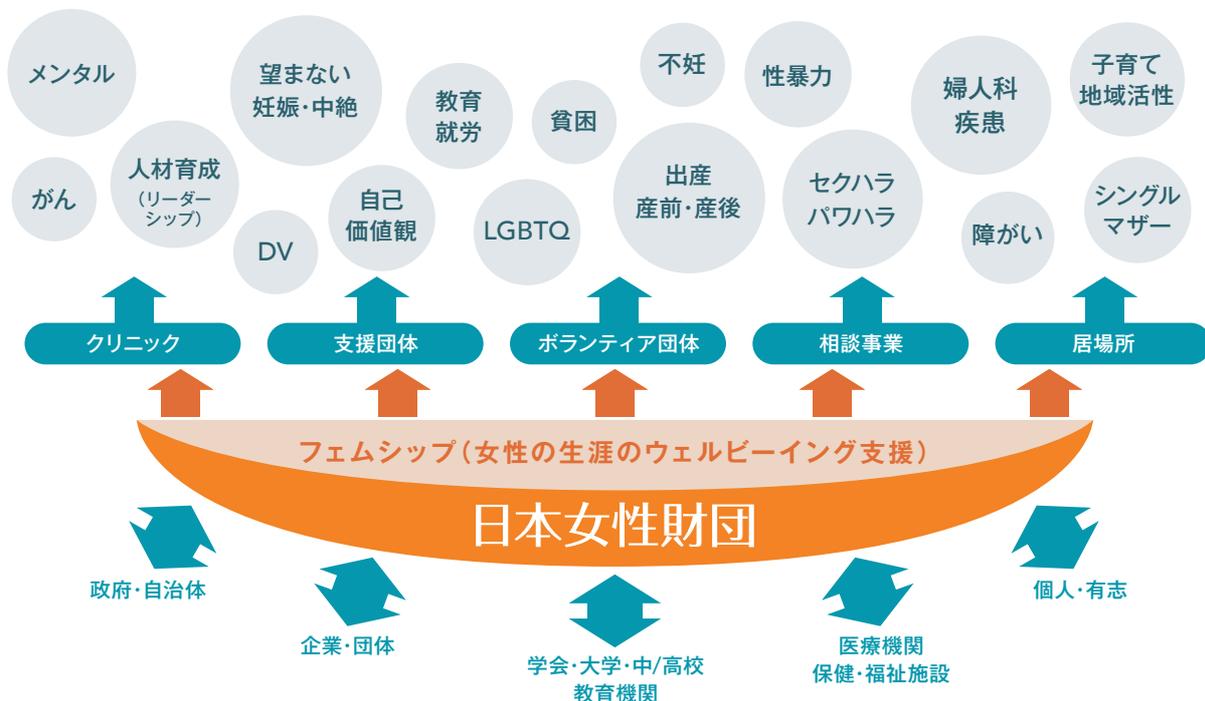
すでに女性支援を行っている団体・組織・個人と連携し、全国各地にプラットフォームを構築し、横連携するしくみをつくっています。

III 情報・データを集め政策提言する活動

女性たちの実態やデータを収集し、政府や自治体をはじめ、社会に具体的な提言を行います。より良い社会システム構築に向けた活動です。

日本女性財団は、女性たちの健康課題に対して、

- I 現場で取り組みながらその現状について調査し報告します。
- II 各分野や各目的ですでに女性支援を行っている団体・組織・個人と連携し、全国各地にプラットフォームを構築し、横連携することによって、女性支援の質と量を高めます。
- III 得られた課題の情報やデータを政府や自治体の長に伝え、女性政策の提言をします。



I 女性たちの現状を知る活動

フェムシップドクターや支援団体が、現場で女性たちの救済に取り組みながらその現状について調査、記録しています。

Action 1 フェムシップドクターズ(女性を支援する医師)をふやす活動

フェムシップドクターズ®とは、日本女性財団の趣旨に共感し、女性支援を行うことに賛同くださった医師または国家資格を持ち、当該職務にて活動実績のある医療従事者の総称です。

2024年現在、全国で96名のフェムシップドクターが活躍しています。5年間で500名のフェムシップドクターの登録を目指しています。

フェムシップドクターズへの関心を高め、養成講座を年に1回行っています。(リアル年1回 オンデマンド研修随時)
フェムシップドクターズ:2024年96名



フェムシップドクターズ養成講座



Action 2 女性たちが相談しやすい医療施設の窓口を増やす活動

すでに活動している医療施設や福祉・支援窓口を登録し紹介します。女性たちがどこに相談しても有効につながって解決にたどりつけるよう、地域で顔が見える連携をした相談窓口を増やします。また、キーパーソンたちが動きやすいように、プラットフォーム構築と事務局機能の支援をします。



まちかど保健室



全国の相談窓口

<https://japan-women-foundation.org/doctorlist/#drlist>



Action 3 経済的に困窮する女性への医療支援

フェムシップドクターたちの裁量により、さまざまな条件たとえば居住地域や身分証明、経済状態の証明を必要とせずすみやかに必要な支援につなげるようにしています。財源はクラウドファンディング等によって調達しています。

超音波検査	72	その他検査	50	処置	13	経口中絶薬(寄附23.06-)	16	性交痛、尿失禁、便秘禁、GSM	23
性感染症検査	92	ピル処方	275	アフターピル	34	MVAキット(寄附23.07-)	5	その他	124
血液検査	11	ミレーナ挿入料	9	妊娠検査	18	診断書	3	累計	866
子宮がん検査	19	処方	84	中絶手術	15	転居、施設支援	3		

(2021.9~2024.5現在)

II 女性支援を拡げる活動

すでに女性支援を行っている団体・組織・個人と連携し、全国各地にプラットフォームを構築し、横連携するしくみをつくっています。

Action 4 女性を支援する地域プラットフォームの構築

医療・福祉・政治・経済が連携する当財団の活動がWAM(独立行政法人福祉医療機構)のモデル事業として採択され、地域全体で女性たちを支援するプラットフォームを開設しています。

全国6ヶ所(岩手、東京、秋田、岡山、沖縄、中部)にあるプラットフォームを拠点とし、各地域の女性支援団体45団体が連携し、全国にネットワークを展開しています。

DVや性被害など、女性を取り巻く社会問題の解決を図るため、女性たちの課題に合わせて、適切な解決の場につなげます。

団体同士や自治体、専門機関などとの情報交換、勉強会も開催しています。



東京大学名誉教授
上野千鶴子氏の講演会開催



秋田プラットフォームのみなさん



連携団体への支援



沖縄プラットフォームのみなさん

Action 5 女性支援団体、協力企業、協力政治家との交流、連携団体への支援

日本の女性たちを助け、その見えないニーズをくみあげ、企業活動や製品づくりに生かしたい企業の皆様方が、法人会員として財団をさえてくださっています。

2024年より企業プラットフォームを構築し、いっしょに社会活動・企業活動をしてゆく計画をすすめています。財団の理事や評議員と企業との個別の企業内啓発、健康相談、事業相談なども可能です。



政治家との意見交換



フランス病院見学



Action 6 フェムシッパドクターズ養成講座

地域の支援団体や行政と連携して、女性や女の子たちの医療支援をするフェムシッパドクター・フェムシッパサポーターを養成する活動

これまで、性暴力被害対応、DV被害女性への支援、思わぬ妊娠や性感染症に悩む女性、女性特有の体調変動等について、大学や大きな病院に所属する医師や医療職は、そのニーズについて学ぶことはありませんでした。しかしコロナ自粛以降、家庭や学校、職場など閉ざされた関係内で起きていた暴力や搾取に対する支援が必要になっています。医療者も、行政や支援団体と横連携して、敷居の低い医療支援をするため、学ぶ機会を設けました。



フェムシッパドクターズ研修



日本赤十字秋田看護大学研修

お申し込み先:
フェムシッパドクターズ養成講座



▲医師



▲医師以外の
医療従事者

Action 7 女性が安心して集える居場所の提供 フェムシッパハウス事業

困った状態に陥っている女性や女の子が、相談したり、休んだり、一時的に身を寄せることができるフェムシッパハウスを各地に開設しています。医療や行政、メンタルケア、ヘルスケアにつながり、からだと心と生活の自立ができるように、医療者や支援者が支援をつなげます。



第1号:青森県八戸市 白銀ハウス (シェアハウス、民泊、レンタルルーム) 2022年

第2号:埼玉県さいたま市 ヒューマンブーク(居場所、デイサービス) 2023年

第3号:静岡県富士市 れんげそう (自立支援ホーム) 2024年

Ⅲ 情報・データを集め政策提言する活動

女性たちの実態やデータを収集し、政府や自治体をはじめ、社会に具体的な提言を行います。より良い社会システム構築に向けた活動です。

Action 8 活動報告会・イベント開催

3月 フェムシッパドクターの日

毎年、東京都江東区カメイドクロックで、地域住民や支援者のみなさんに、子どもや女性が頼りにできる医師たちを知っていただくイベントです。



「フェムシッパドクターの日」をKAMEIDO CLOCK(東京都江東区)にて開催しました

8月 フェムシッパの日(8月20日)

財団設立記念日に1年間の活動報告会の機会を設け、支援団体や法人個人会員、ボランティア間の交流を深めています。

10月～12月 フェムシッパメディアセミナー、フェムシッパガラパーティ(予定)

メディアを通じて広く企業や個人に呼びかけ、困窮する女の子や女性たちを救済するばかりでなく、ジェンダーや経済の格差を解消してすべての人々が助け合い、豊かで文化的な生活を送れる国家を目指します。

Action 9 政策提言

女の子や女性の健康課題解決にむけて、現場から政策制度の提案をしています。
・自民党本部政務調査会「女性の生涯の健康に関するプロジェクトチーム」にて政策提言を行いました。

自民党政調への提言(2024年5月)

提言1.女性のウェルビーイングのための環境作り 提言2.子ども若者包括健康支援センターの創設
この提言により、女性の包括的健康支援[からだの自己決定権と性の尊厳(SRHR)]を加速させています。



Action 10 関連団体・組織・企業との共同事業

イベント「人と地球に優しい政治をもとめて～私たちのウェルビライフ～」共催:ウィメンズヘルスアクション実行委員会

調査「全国女子高校生調査報告 女子高生の声 自分のからだ」共同調査:ガールスカウト日本連携

共同研究「妊娠中出産後の母体の健康トラブル実態調査 #一万人ママの声を聞かせて」共催:NPO法人ReMind

学会主催「第六回 日本産前産後ケア子育て支援学会」主幹:東京大学伊藤謝恩ホール

共同発表「妊産婦を孤立させないで!家庭用エコーを使った妊産婦の不安解消、うつ予防に関するアンケート」共催:株式会社Border

受賞「第1回 SDGs JAPAN SCHOLARSHIP岩佐賞」医療の部 受賞

助成金 令和4年、5年、6年度WAM事業「困窮する女性たちを救済するフェムシッパドクターのインフラ構築」

